

赤ちゃんの湿疹

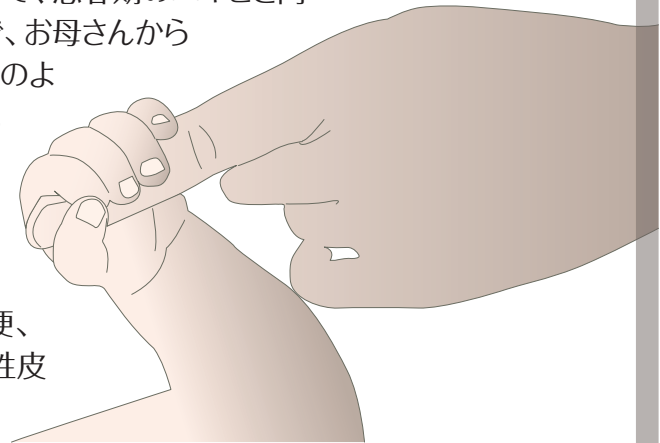
赤ちゃんの湿疹は乳児湿疹と呼ばれますが、
原因によりいくつかに分けられます。

新生児ざ瘡は赤ちゃんのニキビで、生後1～2カ月の赤ちゃんにみられます。一時的に男性ホルモンが多くなり皮脂の分泌が増え、毛穴に皮脂が詰まって出来るもので、思春期のニキビと同じです。

脂漏性湿疹も生後2ヵ月以内くらいの赤ちゃんにみられるもので、お母さんから移行した女性ホルモンの影響で皮脂の分泌が増え、頭に白いかさぶたのようなものができます。いずれもホルモンの影響が減るとできなくなります。この時期は皮脂が赤ちゃんの肌を守ってくれるので、皮膚のケアは清潔を心掛けるようにしていきましょう。

生後3ヵ月を過ぎると赤ちゃんの皮膚はだんだん乾燥肌に傾いていきます。乾燥により皮膚のバリア機能は低下し、皮膚に汗や汚れが触れることで炎症が起きやすくなります。あせもは汗、オムツかぶれは尿や便、口回りや首の湿疹はよだれやミルクが原因で起きます。これらは接触性皮膚炎と呼ばれ、清潔と保湿によりケアします。

アトピー性皮膚炎は、皮膚のバリア機能障害が原因です。アレルギーのある物質が皮膚へ進入することにより炎症を起こします。ですから、乳児期からの保湿ケアはアトピー性皮膚炎発症予防にとっても大切です。また、乳児期の保湿ケアにより食物アレルギーの発症が減るという研究結果も出ています。赤ちゃんの皮膚ケアはまず清潔を心掛け、適切な時期が来たら毎日の保湿ケアをしてあげましょう。



ご予約・お問合せはこちらへ

電話予約

04-7123-5901

月曜日～土曜日 9:00～16:00

ただし、祝日および病院指定休診日を除く

kikkoman 

キッコマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100

電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920

<http://hospital.kikkoman.co.jp/>